2008.7.27

中日理論言語学研究会

文の種類について

尾上圭介

〔§１〕文の種類を考える動機

【１】文法とはコトバの形とそれによって表現される意味との関係。

【２】これを文単位で考える。表現意図と文の形との関係。

―［表現意図の種類と文の種類］―

○表現意図の種類と文の種類とは異次元。一対一対応でもなく、一対多対応でもない。

―［表現意図の種類と文の形］―

○同じ形でも表現意図は一つではない。

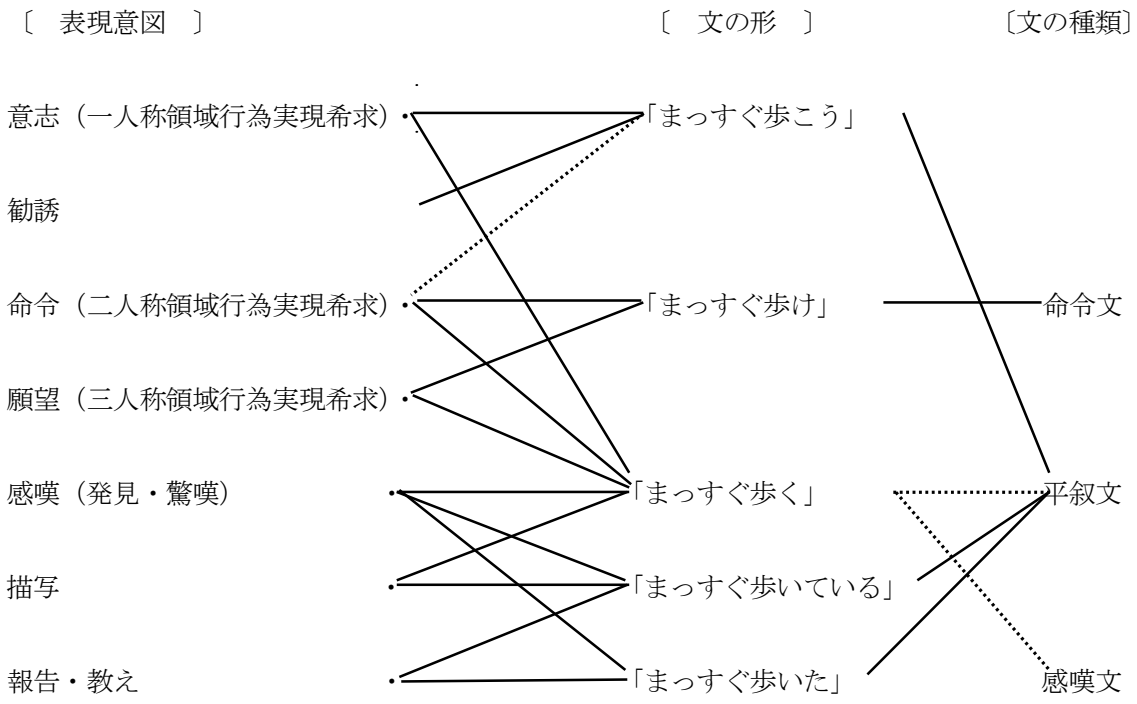
⇒　一つの文型が異なる意味を担いうる論理を、個々に問う。多義性の構造。

「文法形式の多義性の構造を問う」という研究領域の重要性。　言語の創造性。

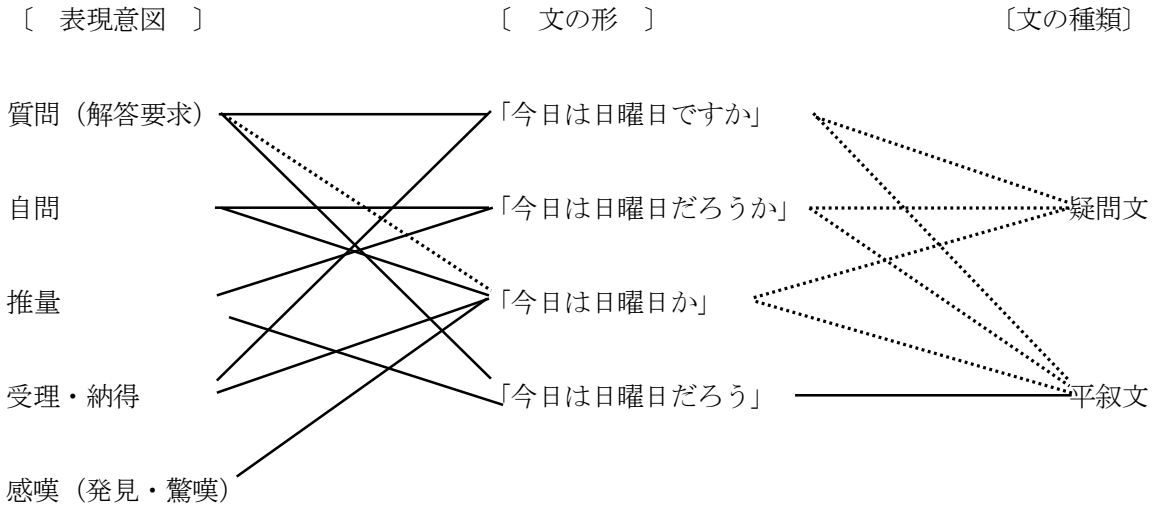
―［文の形と文の種類］―

○文の形の種類≠文の種類　（英語などでは、文の種類は文の形の大別）

［２－１］表現意図と文の形Ａ（命令・平叙あたり）

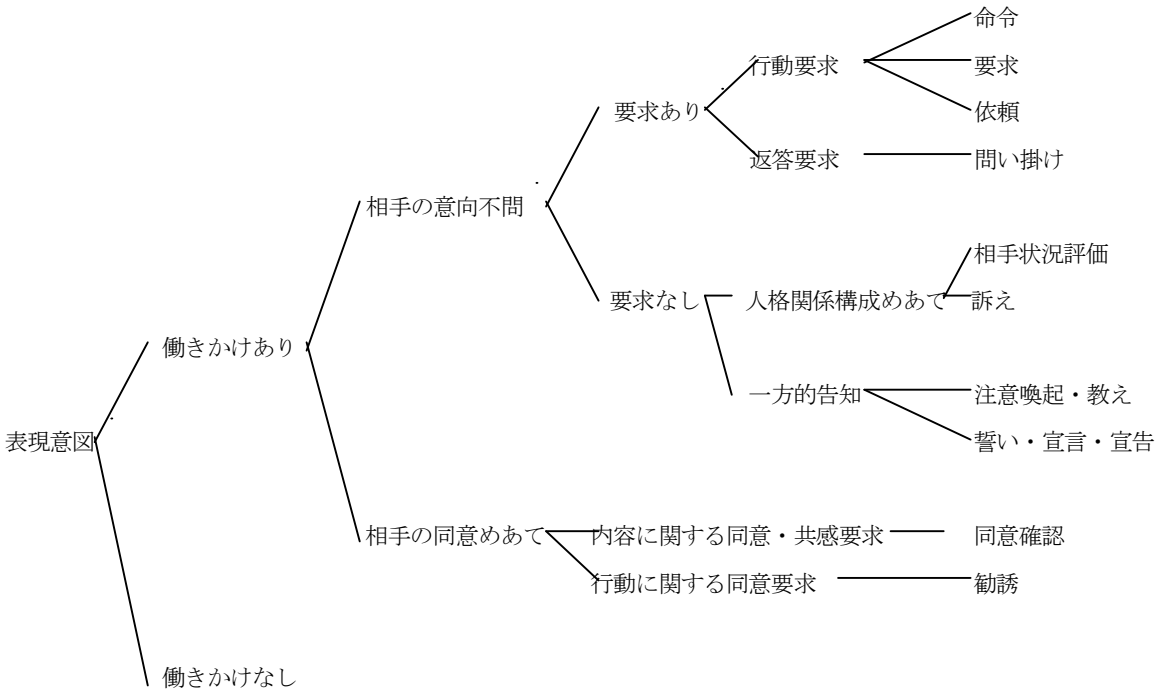


［２－２］表現意図と文の形Ｂ（疑問・平叙あたり）



○文の種類が文の形の大別としては見えない日本語において、文の種類を考えることに意味はあるか。あるとすれば、どのような意味があるか。

【３】要求の有無で文の種類を分けることの無意味



（尾上 1975「呼びかけ的実現」---- 尾上 2001 第 1 章第 2 節に収録）

【４】○○文（文の種類）がそういう文型になることの理由を問う。

・動詞が命令形になれば命令文ができるというのなら、疑問文は動詞の疑問形で、感嘆文は動詞の感嘆形で作れるはずではないか。そうならないのはなぜか。

・日本語に疑問文の文型というものはあるのか。
・平叙文と呼ばれるものに文型上の共通性はあるか。

【５】平叙文と疑問文のみ、述語にテンス、モダリティがあるのはなぜか。（cf.モダリティの規定）
平叙文と疑問文に主語と述語があるのはなぜか。（命令文・感嘆文では？）
そもそも、平叙文とは何か。

【６】文の種類を問うことの意義は、コトバの形が意味を担う、その担い方の異質性を問うところにある。

〔§２〕文の種類とは何か

【１】述語を持たない文（非述定文）と述語を持つ文（述定文）

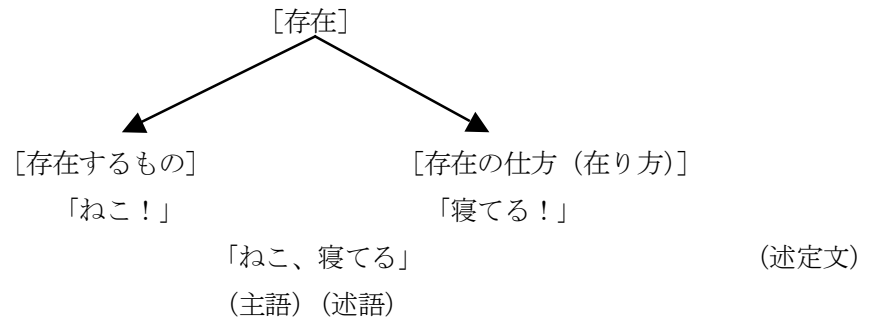
原理的一語文の用法 ＜ 発見・驚嘆（←現場的、個的存在承認）
　　希求（←現場的、個的存在希求）

（尾上 1986「感嘆文と希求･命令文―喚体・述体概念の有効性―」
尾上 1998「一語文の用法･―イマ・ココを離れない文の検討のために―」
これらは、尾上 2001 第 1 章第 8 節、第 10 節に収録）

○概念を用いて何ごとかを表現するということは、概念の指示対象の存在承認か存在希求。
これは、述語を持たない文でも実現する。　（↑共同注意）
（尾上 2006「存在承認と希求―主語述語発生の原理―」国語と国文学 83 巻 10 号）
○動詞命令形とは、動詞希求形（連用計+助詞相当）。命令形命令文とは、希求対象の運動に対する呼びかけの形。
「桜よ！」「太郎（よ）！」「おかあさん！」など、名詞呼びかけ形は、名詞の側の希求形。希求対象のモノに対する呼びかけの形。
○運動概念を素材的に言語化するだけの終止形を叫ぶことによってその運動を希求することもありうる（「止まる！」）。
名詞概念の言語形式（すなわち名詞のみ）を叫ぶことによってそのモノを希求することもありうる（「水！」）。
○このような命令形、終止形は動詞の述定形式としての用法ではない。述語ではない。
命令形命令文は述語を持たない文（非述定文）。
○感嘆文も、遭遇対象の存在を言語化するのみの文であり、述語を持たない文（非述定文）。
（cf.　感嘆文の規定）
「ネズミ！」「ネズミが笑う！」

○述語を持つ文（述定文）とは何か。

（尾上 2006「存在承認と希求―主語述語発生の原理―」国語と国文学 83 巻 10 号）



○ものの在り方を語る述語は、在り方の多様性に応じて異なる述定形式を採る。（述定文）

「歩いた」「歩いている」「歩こう」「歩かない」

「歩きそうだ」「歩くようだ」「歩くかもしれない」「歩くべきだ」･･･

○現実世界に存在していない在り方を語る叙法形式（非現実事態仮構の叙法形式）「歩こう」が（文末で終止法として）使われると、（事実界と接触するために、）

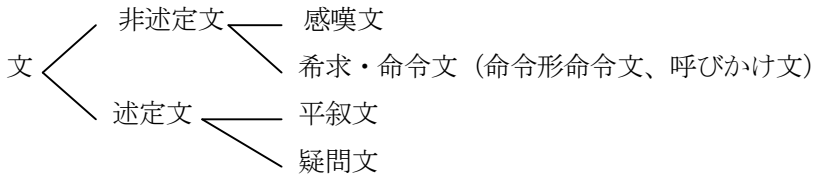
①非現実の存在の存在希求（一人称領域なら「意志」「（われわれの意志）→勧誘」、二人称領域なら「命令」）か、②非現実の事態の（いつか、どこかで実際にそのことが在るという）存在承認（すなわち「推量」）の意味が出る。（尾上 2001 第 3 章第 3、第 4 節）

○述語を持つ文（述定文）には平叙文と疑問文が考えられる。

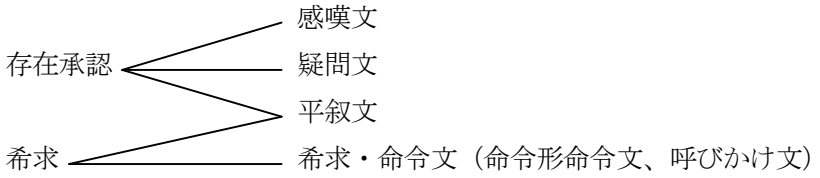
［存在の仕方（在り方）］を積極的な述定形式（＝グラウンディング形式）をもって語りつつ（存在を主述に分けて語りつつ）、

存在を承認したり、求めたりする文 ―― 平叙文

存在承認を留保する文、判断放棄する文 ―― 疑問文



【２】存在承認・希求と文の種類



[参考文献]　尾上圭介『文法と意味Ⅰ』くろしお出版、2001。特に第 1 章、第 3 章。

尾上圭介『文法と意味Ⅱ』くろしお出版、2008 近刊。特に総括的序章。